

東海の8国立大 災害時支援協定

南海トラフ地震など想定

名古屋大、静岡大など東海地方の国立八大学が十四日、南海トラフ地震など大規模災害を想定し、災害時の相互支援や防災対策の強化に協力する協定を結んだ。

八大学は両大学と岐阜

大、三重大、浜松医科大学、名古屋工業大、愛知教育大、豊橋技術科学大。名古屋大によると、類似の協定は東北、九州など各地にあり、昨年の熊本地震の際、九州の大学間で結んでいた協定が効果を発揮したことか

ら、東海地方でも締結の機運が盛り上がったという。大学には特殊な実験施設や薬品類が多いが、取り扱いに詳しい人材は限られている。今後、締結した大学が被災した場合、他大学から専門知識を持つ職員らを派遣し、学内の安全確保や研究の早期復旧を図る。必要な資機材も提供する。こうした体制づくりのため、担当者会議を開くなどして連携を深め、共同の防災訓練や研修も検討するとい

東京都内であった締結式には八大学の学長が出席し、協定書に署名した。名古屋大の松尾清一学長は「危ないといわれるこの東海地区で、協定締結は遅すぎたぐらいだ。協定に従い、災害時に有効に機能する体制をつくっていきたい」と意欲を語った。